

麦が黄金色に実る「麦秋」の時季を迎え、県内の産地では収穫作業が本格化しています。

①大分県内の主な産地と、植えられている種類は何でしょう。

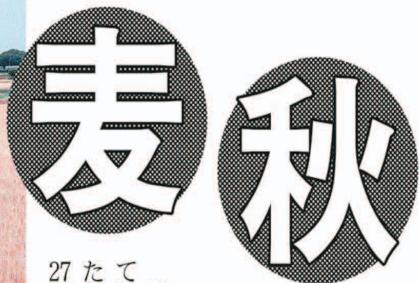
②「麦秋」とはいつをいいますか？ また、なぜ「秋」なのでしょう。



黄金色に実った麦の収穫が本格化=27日、宇佐市葛原

宇佐、中津、豊後高田、豊後大野、国東の各市が主要な産地で、二条大麦、小麦、裸麦の3種類が植えられている。収穫の最盛期を迎えるのは二条大麦と裸麦。小麦は6月上旬から収穫に入る見込み。県集落・水田対策室によると、今年の作付面積は計4528・2haが見込まれる。昨年11月の雨で種まきが少し遅れ、冬場の低温で成長がやや停滞ぎみになつたが、3月からの高温で挽回。4月の低温で寒い具合が心配されたが、5月の好天で持ち直した。

宇佐市葛原では二条大麦の二シノホシの収穫が最盛期。約40秒を所有する「葛原アグリ」社長の吉川繁則さんは64)は先週から収穫を始め、すでに約10秒で刈り取りを終えた。「少雨と乾燥で収穫は順調」と笑顔を見せながらも、「雨に備えて『早めに収穫しなければ』と作業を急いでいた。麦は収穫期に雨に当たると品質が劣化しやすい。県集落・水田対策室は「小麦の収穫期まで天気が持つほしい。生産者には早めの収穫を呼び掛けている」としている。



好天で生育順調

収穫作業が本格化

麦が黄金色に実る「麦秋」の時季を迎え、県内の産地では収穫作業が本格化している。3月からの高温で順調に生育が進み、例年並みの収穫が期待できそう。ただ、ここ数年は収穫期と大雨が重なって生産量の減少が続いた。平年より早く27日に「梅雨入り」したこともあり、生産者は天候の行方に気をもんでいる。

(2013年5月28日朝刊5面)

③今年の収穫量の予想はどうでしょう。収穫と雨との関係を考えてみよう。